

令和8年度諏訪市美術館

開館70周年記念展



矢崎博信「高原の幻影」1938(昭和13)年 キャンバス、油彩

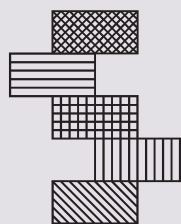
諏訪に刻む

令和8年 7月4日(土) - 9月27日(日)

- 【休館日】月曜日、祝日の翌日
(7/6、13、21、27、8/3、10、12、17、24、31、9/7、14、24)
- 【開館時間】午前9時～午後5時(最終入館 午後4時30分まで)
- 【入館料】一般(高校生以上) 520円
子ども(小中学生) 150円
一般団体(20名以上) 410円
子ども団体(20名以上) 100円
障がい者(介助者1名まで同額) 150円
※諏訪地域の小中学生は無料

主催：諏訪市美術館

後援：信濃毎日新聞社、長野日報社、市民新聞グループ、
SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、
abn長野朝日放送、エルシーブイ株式会社、
諏訪美術会、諏訪市美術会、信州美術会



諏訪市美術館
SUWA CITY MUSEUM OF ART



諏訪市美術館
ホームページ



SUWA CITY MUSEUM OF ART
Instagram



上野誠「野分さ」1967(昭和42)年 木版

諏訪に刻む



浜達也「水ぬるむ」1988(昭和63)年
彫金／茅野市美術館蔵



東郷青児「女」1968(昭和43)年
キャンバス、油彩／©Sompo Museum of Art, 26014



中林忠良「剥離される風景I」1972(昭和47)年
銅版(エッチング・メゾチント・アクアチント)



石井柏亭「中信酒客」1953(昭和28)年
キャンバス、油彩／松本市美術館蔵

諏訪市美術館は今年、開館70周年を迎えました。これを記念して、開館から現在に至るまでの美術館の活動を、前半と後半に分けて紹介する展覧会を開催します。前半期にあたる本展では、開館から昭和期の活動を、当時の動向を交えつつ、作品と共に紹介します。明治には製糸業が栄え、信州屈指の工業地域として知られるこの諏訪の地で、地元の芸術家や戦時中信州に疎開していた芸術家たちの熱意のもと、諏訪市美術館は、昭和31年、長野県初の公立美術館として開館しました。

緑色の瓦屋根とレンガ状に鉄平石が貼られた外壁を持ち、昭和18年に片倉館の付属施設「懷古館」として誕生した建物は美術館として引き継がれ、現在もその姿を見ることができます。

現在は1,500点を超える作品を収蔵している当館ですが、開館当時は収蔵作品点数も少なく、地元の芸術家たちが県内外に足を運び、1年間の寄託を依頼して作品を借用し、展覧会を開催していました。

その後、例えば昭和40年代には版画を中心に作品を収集するなど、さまざまな活動を行い、諏訪市美術館は多くの関係者に協力いただきながら、コレクションの充実を図ってきました。その結果、昭和60年頃には400点を超える作品を収蔵する美術館となりました。その時代に集めた作品は現在も当館の大切なコレクションの一つとなっています。

本展では、開館に携わった作家の作品や、コレクション充実に向け収集された版画作品等を中心に展示します。美術を愛し、諏訪を愛した人々の熱意から始まり開館した諏訪市美術館の軌跡を、ぜひご覧ください。

展覧会イベント

●制作イベント「消しゴムはんこ作り」8月29日(土)午前9時30分～午前11時30分

- 講師: GAAAKO氏(消しゴム版画作家) ■会場: 駅前交流テラスすわっチャオ(アーク諏訪3階)会議室5
- 定員: 15名(先着) ■参加料: 700円 ■対象: 小学校4年生以上
- 内容: 消しゴム版画作家のGAAAKO氏を講師にお招きし、消しゴムはんこを制作します。はんこを制作後、無地のシルシートやハガキに押し、デザインや色合いを楽しめます。
- 申込: 電話かメールにて申し込み

●学芸員によるギャラリートーク 9月12日(土)午後2時～午後2時30分

- 会場: 諏訪市美術館 ■定員・申込: なし ■参加料: 入館料のみ ■対象: どなたでも



【交通案内】 JR中央線上諏訪駅より徒歩7分
中央自動車道諏訪ICより車15分
諏訪湖スマートICより車13分